

科目区分：芸術文化課程（音楽文化コース）

授業科目名：ピアノ⑤

対象年次：3年次

## ピアノの実技演習

音楽教育講座・福富 彩子

### 1. 目的と到達目標

本授業は、ロマン派及び近代のピアノ作品を取り上げ、演奏技術と表現力を高めるための演奏法を学ぶことを目的としている。「ピアノ」は、①～⑤まで段階的な履修が可能な専門科目として開講され、「ピアノ⑤」は3年次後期に習得する発展的内容となっている。到達目標は、課題の実施によりピアノ作品・演奏に対する知識と技能を身につけ、思考しながら、豊かで多様な表現力を伴った演奏ができるようになることである。

### 2. 概要について

本授業は、芸術文化課程音楽文化コース3回生を対象に演習を中心として前・後期に開講されている。平成28年度、「ピアノ④」と「ピアノ⑤」を段階的に履修した受講者は5名であり、全受講者がピアノの演奏経験を有していた。なお、対象楽曲は、これまで取り組んできた課題及び熟達度に応じて、各受講者と面談の上決定した。

「ピアノ④」では、約10分程度のロマン派作品を取り上げて演奏研究を行った。「ピアノ⑤」では、ロマン派後期から近現代にかけての作品を取り上げ、最終試験において、演奏会形式による全体での発表を行った。

### 3. 授業時に心がけた点

#### 1) 演奏時の表現力の向上について

演奏時には、楽譜に示された情報を正しく捉えて表現することの他に、“音色づくり”のための技術を要する。本授業を履修している受講者は、ピアノ演奏に関する基礎的な知識および技能を有しているため、発展的内容として、精緻な打鍵コント

ロールによって要求する音や和音を作り出すための技能を養うことも目的のひとつとして実践した。授業時、学習者が演奏しづらいと感じている箇所をピックアップし、その要因を明らかにする作業とともに、それらの改善を図る練習法の実践を毎時の課題とした。また、学習者がイメージし思考する過程を大切に考え、楽曲構造や表現に関する問いかけを行うとともに表現内容（アゴーギク、デュナーミク、フレーズング等）を楽譜に記す作業を行った。それら一連の行程により、自らの表現内容と課題を確認し、演奏の向上と授業外学習のモチベーションへと結びつくことを意図した授業展開を心がけた。

#### 2) 地域社会を核とした教育と研究のつながり（演奏発表会の開催）

毎年、学外において演奏発表会を年1回開催しており、今年度も12月に松山市内の演奏会場にて実施した。授業で取り上げた楽曲の演奏発表と地域を通じて音楽を発信する意味づけ、発表会の運営にも学生が主体的に関わることで、演奏を通じた地域とのかかわりを意図した試みである。さらに、異学年の交流を通じて自己課題の認識による技能・表現の向上を目的とした。

#### 3) 映像（音源）によるフィードバック

発表会終了後に、受講者と演奏時の映像を確認し、具体的な演奏内容、改善された点と課題について振り返りを行った。このような客観的聴取は、演奏時には得られにくい「気づき」に有効であると考えられ、学習者が次のステップとなる明確な目標が持てるよう配慮した。

#### 4. 授業アンケート

本授業終了時、受講者 5 名を対象に下記の 8 項目のアンケートを実施した。

##### 1) 結果について

1. 本授業に興味を持つことができましたか。

そう思う	4 名 (80%)
どちらかといえばそう思う	1 名 (20%)
どちらかといえばそう思わない	0 名
そう思わない	0 名

2. 本授業で用いた教材についてどう思いますか。

適切であった	5 名 (100%)
どちらかといえば適切であった	0 名
どちらかといえば適切でなかった	0 名
適切でなかった	0 名

3. 本授業の進度についてどう思いますか。

適切であった	5 名 (100%)
どちらかといえば適切であった	0 名
どちらかといえば適切でなかった	0 名
適切でなかった	0 名

4. 本授業の難易度についてどう思いますか。

適切であった	5 名 (100%)
どちらかといえば適切であった	0 名
どちらかといえば適切でなかった	0 名
適切でなかった	0 名

5. 授業時間外学習の取り組みはどうでしたか。

充分であった	1 名 (20%)
どちらかといえば充分であった	3 名 (60%)
どちらかといえば充分でなかった	1 名 (20%)
充分でなかった	0 名

6. 受講後、新しい知識や技能を得ることはできたと思いますか。

そう思う	5 名 (100%)
どちらかといえばそう思う	0 名
どちらかといえばそう思わない	0 名
そう思わない	0 名

7. 受講後、到達目標は達成できたと思いますか。

そう思う	1 名 (20%)
どちらかといえばそう思う	4 名 (80%)
どちらかといえばそう思わない	0 名
そう思わない	0 名

8. 授業外での学習時間 (1 週間) について

1~2 時間未満	1 名
3~4 時間未満	2 名
4~5 時間未満	1 名
約 25 時間	1 名

##### 2) アンケート結果のまとめ

全員の受講者が授業の進度、使用教材、難易度について「適切であった」と回答し、受講後に新しい知識や技能を得ることができたと回答した。一方で、授業時間外学習について「充分であった」は 1 名、「どちらかといえば充分であった」が 3 名、「どちらかといえば充分でなかった」が 1 名であった。記述式アンケートでは、「地域社会との繋がりと成果発表を目的に開催しているピアノ発表会の取り組み」について、「発表会を通じて人前で演奏できる喜びや幸せを感じる」「人前で演奏することで多くの課題を見つけることができる」「モチベーションの向上に繋がる」「他者の演奏を聴くことのできる数少ない機会」「もっと集客に力を入れてもよい」「演奏技能の向上につながる機会」との回答があった。

#### 5. 今後の課題等

地域社会をフィールドとした教育・研究のありよう、また、授業実践においてそれらが相互に作用する仕組みづくりを検討する必要性を感じた。地域との交流を図った演奏発表会の取り組みは、アンケート結果から学習者の動機付けに繋がり演奏技能の向上にも寄与しているものと推察できた。一方、授業外で各自が行える取り組みを増やすことの重要性を再確認した。例えば、映像 (音源) による振り返りには Moodle の導入が有効である。また、授業内で受講者間のディスカッションを深めるなど、実技演習以外でも、高い意識付けと自発的な授業参加へ繋がるような工夫が求められる。